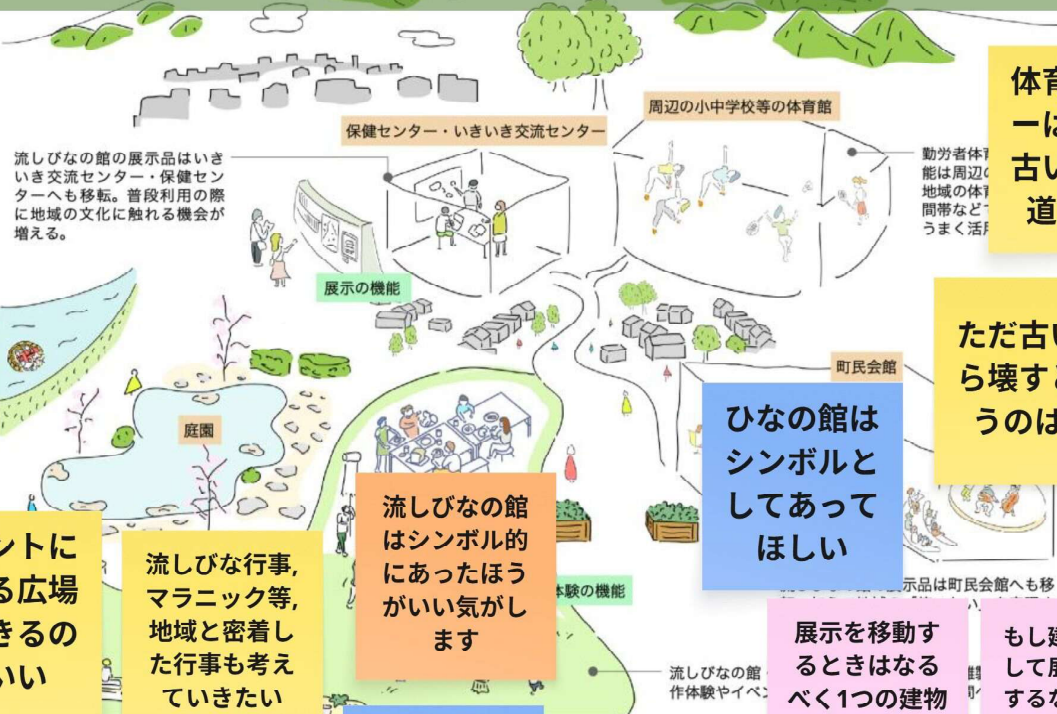


たたき台② 文化を体験し、つなぐ「アトリエもちがせ」



体育センターは確かに古いが使い道はある

ただ古いから壊すというのは？

ひなの館はシンボルとしてあってほしい

流しびなの館はシンボリックにあったほうがいい気がします

友達と遊べる広場的な場があるのがいい

誰が管理運営するのか

展示を移動するときはなるべく1つの建物にまとめてほしい

もし建物を廃止して展示を移動するなら時々使うから会議室を残してほしい

民間への移行はすべてベターではない。ひなの館は

町民会館は習い事に使っていると思うのでその機能は残してほしい

勤労者体育センター：機能移転
耐震性が不足しているため、建物は廃止して機能は周辺施設へ移転。夜間は小中学校の体育館、日中は近隣の体育館を利用。

流しびなの館・新施設を廃止するかと集約化し伝統文化を重要視。

建物が立派故無くすのはもったいない

郷土歴史館：廃止
施設は廃止。(5年以内) 展示物は整理し重要品は他施設へ移転する。

体育センター、放課後の子どもたちのスポーツ機会を奪う→対策要!

観光インフォメーションの機能は絶対必要!

いきいき交流センターは民間活用で!新たな取り組みへ

町民会館・いきいき交流センター・保健センター
町民会館、保健センター、いきいき交流センターの機能を見直し、集約化など施設の利活用を検討する。

流しびなの館・観光物産センター跡地：民間活用
跡地は歴史文化継承や体験ゾーンとして、民間活用の可能性を探る。

イベントに使える広場ができるのはいい

流しびなの行事、マラニック等、地域と密着した行事も考えていきたい

流しびなの館、用瀬のシンボルなくなるのは考えられない

シンボルとしてはカッコいい

現状

用瀬地域は、歴史文化の宝庫。利便性も高い。しかし、近年は人口減少が進み、高齢化が進んでいる。地域の活性化と文化の継承が課題となっている。

整備案

日常的な利用の少ない郷土歴史館+大規模改修することで、歴史文化を継承するために、流し雛製作などの「観光体験」を強化し、日常に寄り添うエリアへ。

関連施設の基本情報

施設名	築年数	構造	延床面積	利用状況
流しびなの会館	31年	鉄筋コンクリート	757.15m ²	4,333人(R5年度実績)
体育センター	46年	鉄骨造	1203m ²	2,149人(R5年度実績)
流しびなの館	37年	木造	975m ²	6,280人(R5年度実績)
いきいき交流センター	33年	木造	548.19m ²	28,292人(R5年度実績)

メリット

- ・建物の老朽化/維持コスト削減
- ・日常と観光が混ざり合う
- ・文化に触れる機会が増える

デメリット

- ・大規模改修に費用が掛かる
- ・文化をまとめて見られる“専用の場所”がなくなる
- ・展示できる量や内容に限りが出る

流しびなの館の別の利用方法

再編によるコスト削減効果

更新経費
(建設、改修、小修繕費)

¥33

①より②がよい

定例案